

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自立支援をサービスの基本として、家庭的な環境のもとで、入所者が日常生活の中で役割を見つけ、地域社会への参加、交流を持つことで生きがいを持ち、健康で穏やかな生活を送るための支援をします。また、協力施設と協賛し、関係機関や福祉団体との連携を図りながら福祉の増進を目指します。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の理念の基となる会社の経営理念を毎朝唱和し目標の共有に努めている。と共に具体的な事業所目標を掲げ職員全員で努力している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	バスハイクや敬老会などの行事の機会を利用し家族との話し合いを持つように努力している。外出行事は地元のお店や近所のコミュニティセンターなどを利用している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地環境に恵まれているとはいえ、隣近所の人との交流が少ない。工夫として、郵便配達員や職員OBなどが気軽に寄ってもらえるよう努めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民家が遠く(近隣には町内会がない)地域の自治会等には参加できていない。逆に敬老会や夏祭りを開催し参加してもらい、少しずつでも理解していただけるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	地域への貢献は公社の経営理念の1つでもあり、取り組みに力をいれなければならない課題である。当グループホームには認知症に関する専門知識や資格を持った職員もいるので、今後は地域に向けた認知症介護への取り組みを行いたいと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価についてはその意義の重要性、必要性を踏まえ管理者、職員で自己評価を行い、評価状況を社長に報告すると共に「外部評価の指導箇所改善」の話し合いを持って、検討・改善に努めてきた。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に一回程度開催している。直近の会議ではグループホーム待機者状況やスプリンクラー設置についての質問があった。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	第3セクターの株式会社結愛サービス公社のグループホームとして行政担当との連携は常に取っている。必要があれば双方相まって話合える環境にある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は社外研修で学習する機会(管理者研修、運営推進会議、など)が多い。また、福祉センターとの連携が取れているため相談できる体制が取れている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のための事例集や身体拘束に対する資料を基に各々での学習を進めている。今後は事業所内の勉強会に取り入れ、虐待防止に努めていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者及び計画作成担当者が契約を行っている。申し込みの時点で施設見学を受け入れたり、概要説明を行っている。一方的な説明ではなく、時間をかけ納得していただけるよう努めている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に入所者代表が委員として参加し意見を表せる機会を設けている。また、管理者や計画作成担当者が日常生活での会話や行動から入所者の気持ちを汲み取るよう努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の協力もあり、病院受診は家族が積極的に行っているため、定期的に来訪される機会を持っている。その機会を利用して行事連絡や健康状態の報告などを行っている。また、広報「ゆうあいだより」で全体の報告も行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事業所に意見箱を設置したり、直接家族からご意見等を頂くよう努めている。また会社組織として、苦情解決第三者委員を設置し信頼を築くよう努力している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会社への提言箱が設置されており、社長に直接意見・提言ができるシステムを設けている。また、全体会や管理者との個人面談も設けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態の変化や行事等、家族への対応に合わせ職員の勤務体制を調整している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>会社内の異動の場合、管理者から上部に対しグループホームに適した人材を希望すると共に異動対象者は事前にコミュニケーションを取り、スムーズに入所者へ接することが出来る環境をつくっている。また、他事業所へ異動した職員も、入所者への馴染みの関係を継続させている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>会社の方針として職員研修は組織的に取り組んでいる。社内研修は研修委員。社外研修は看護・介護部長により計画的に行われている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会の会員となっており、協会が主催する研修や地区ブロックごとの定例会などへ参加することでサービスの質の向上に努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>忘年会の開催を2回に分けたり、職員レク(バレー、ソフトボール、ボーリングなど)を定期的に行うなどストレス解消、コミュニケーションの工夫を行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>会社として、研修や資格取得へのバックアップが出来ている。また、研修報告会を開催するなど職員全体にやりがいを持ってもらうシステムを設けている。年に2回自己評価も行っており、自分を見つめ直すきっかけづくりも行っている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申し込みの際に家族からの事前の情報収集をし、事情が許す限り、本人との面談の機会を設けるようにしている。入所決定時にも再度面談をする。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申し込みの際には事前に時間の調整を行い、十分な時間をかけて、家族から話を聴く。また、相手の都合に合わせ納得いくまで話を聴く機会を設けるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人状態や家族状況をよく聴き、他のサービス等も含めた利用内容を希望も含めよく検討するよう話し合っている。		当グループホームでの対応が難しい場合は、連携施設や担当ケアマネとの相談等も実施している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所申し込みの時点で施設見学をしていただき、その後も希望があればいつでも来社していただく。入所決定時にも、数日の余裕をみて、何度か話し合う場を設け、入所に向けた準備をしている。		入所前に体験入所ができるようなシステム作りを今後検討していきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「その人らしい」を常に考え、出来ることはやってもらう。職員が人生の先輩から学ぶ姿勢で支援を行っている。調理や夏場の畑仕事など。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入所者の代弁者とも言えるご家族からの要望や助言は真摯に受け止めながら日々努力している。また、家族からの協力もあり行事(敬老会の着付けなど)をスムーズに行えている。		ご家族様からの要望を出していただきやすい雰囲気作りに心がけ、より多くの意見、要望、提言をいただき、本人と共に支え合う体制を作っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	受診や薬取りは可能な限りご家族様をお願いしている。そのことにより、定期的に訪問していただき近況報告が来ている。また、季節毎のあいさつで入所者の様子をお知らせしている。		面会だけでなく、手紙や電話での交流も含め、家族との繋がりが切れないように努めている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例えば、息子や孫の写真を生活の場に取り入れたり、希望があれば入所される以前に住んでいた場所にお連れするなどの工夫をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入所者同士の相性や、その時の気持・心情を見極め職員が仲介役となり、入所者同士が良好な係わり合いを持てるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了した場合でも、その家族や利用者から何らかの相談や助言が必要とされる時は協力する姿勢である。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パーソン・センタード・ケアを行っていくためにケアマネを中心とし本人本位のケアプランを作成、実践している。(例:24時間シート)		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネを中心に月に2回のケア会議を開催し、入所者一人ひとりの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所者一人ひとりの出来る事を日常生活の場面から見つけ出し、それが継続できるよう支援するよう努めている。		認知症(中核症状)の進行などにより、出来なくなったことはあるが、何らかの支援(手助け)をすれば、まだ継続してできる。という考えで支援に取り組んでいく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活の場面からはもちろん、あらゆる機会を利用し本人や家族、関係者からのアドバイスを踏まえながらチームで話し合いケアプランに反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しは原則3ヶ月に1回で実施しているが、体調の変化や著しく状態が変化した場合に本人・家族などと相談しながら見直しをしている。(ケア会議の活用)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援をした項目をチェックする方法でどのような支援をしたか一目でわかる様式を使用し、気付いた事や詳しく伝えたい情報は文章で記録している。		普段のケアチェック項目から見えてくる支援をケアプランに活かし、より良い援助ができる材料として活用している。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族からの要望で水木だんご作り等、季節の行事の開催に努めている。また、敬老会へ着物での参加などの希望に対応している。また、ボランティア団体受け入れ(ワソコの会など)も行ったり、OB職員が地域の広報誌配達を継続して行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の協力機関に年2回発行の機関誌を配り、理解を深めて頂いている。また、運営推進会議での意見交換も実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同地区の事業所との定例会を設け、情報交換を行っている。ケアプランやサービス内容の積極的な意見交換がされている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	福祉センターとの協力体制は出来ている。現在は申し込み等に関わっての情報交換を主としている。		必要に応じて情報交換を行っているが、今現在必要な事例は特にない。今後必要になったら協働して行うこととなる。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所者のかかりつけ医は隣接する県立一戸病院にお世話いただいている。また、協力医療機関でもあることから、本人と家族の希望を大切に、県立一戸病院との連携を密にし適切な医療を受けられるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	県立一戸病院(精神科)との協力体制があり、認知症介護に対する助言なども頂いている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護部長を中心に他事業所の看護師の訪問(毎日1回)が行われており、看護師と入所者の馴染みの関係が築かれるよう努めている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ここ1年間入所者の入院がない。が、実際に入院されるケースがあった場合には積極的に情報交換をしていきたい。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望する限り終末期まで介護したい。実際には終末期への対応として県立一戸病院との連携を中心としたマニュアルをスタッフは共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		○	現在までに具体的な事例がなかったこともあり、本格的に本人・家族・かかりつけ医・事業所間でのチームとしての取り組みは行われていない。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	認知症高齢者の環境の変化への対応には十分配慮している。実際には数日間の帰省の際も家族との情報交換は密に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の管理と保護については取り扱いに慎重であらねばならないことを職員全員が共有している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	可能な限り本人の希望や要望を引き出すよう努めている。また、本人の力に合わせ選択肢を減らし選びやすい環境をつくる工夫などしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソン・センタード・ケアを行っていくためにケアマネを中心とし本人本位のケアプランを作成、実践している。また、「個性」「その人らしさ」を大切にするように努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望または家族からの要望により本日の衣類を決めている。理容・美容に関しても各々の希望に合わせて、店や髪型を決めていただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士のメニューを基本にしているが、一人ひとりの状態によって内容や量を工夫している。配膳を自分の役割としている入所者もいるので、職員と協力して出来ている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	自己選択できる方に関しては買物の際に好きなパンやカップラーメンなどを購入している。また、家族が本人の好きなお菓子などを持参するなど、各々の嗜好に合わせた支援をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	1人ひとりの排泄パターンに合わせ排泄誘導を行っている。オムツ使用の方には、その人の状態や、活動状態に合わせて必要に応じて使い分けをし、不快な状態を軽減するよう努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を午後に設定し希望があれば入浴できる環境を整えている。希望を示せない入所者に対しては、職員側から不快にさせないような声掛けなど、工夫している。毎日行っているバイタルチェックで入浴の可否の支援もしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1人ひとりの就寝、起床時間を把握し支援している。また、その時の希望があれば臨機応変に対応する。		例えば、朝食の配膳を役割としている方は早起き。夜の歌番組を好む方は就寝時間を遅めにするなど。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自己実現の要求を理解し、会話の中からヒントを得ながら個別的な楽しみや集団での遊びなど工夫している。畑仕事、草取り、ビデオ鑑賞、買物など		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方に関しては外出先での買物や、施設に設置してある自動販売機での購入ができるよう支援している。また、訪問販売(ヤクルト)の機会を利用する場合もある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は福祉センター敷地内を散歩したり、冬場などは併設されている施設(交流スペース)まで散歩している。また、高齢化や認知症の進行により外出支援が難しくなっている実情もある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	可能な限り対応している。		・以前住んでいたアパートや自宅(個別) ・バスハイク(皆で)など行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば施設内から電話をかけ話している。また、年賀状や暑中見舞い等、職員と一緒に書いて出している。		身内宛に出すハガキを入所者と一緒を書くことで、改めて入所者の気持を知る機会(きっかけ)となっている。これは職員にとっても良い効果が表れている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めてあるが、家族や知人の都合に合わせて気軽に訪問できるよう努めている。訪問者へはお茶を提供したり、普段の様子を説明したりしている。		面会者を把握するため、玄関にて面会簿への記録をお願いしている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は行っていない。現在までに拘束の事例もない。		今後も拘束は行わないケアに努める。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけない。無断外出を防ぐ為、職員の見守り、玄関にセンサーを設置、福祉センター事業所に緊急連絡網を設けている。		安全確保はされており、今後も現在の見守り体制などにより鍵をかけないケアを継続していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	1時間ごとの所在確認を実施(記録)している。居室等に入られた場合は本人のプライバシーに配慮しながら所在確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室空間などで必要でない物(使わなくなった物)などは、ご家族に持ち帰ってもらい整理整頓に心がけている。それ以外は個々に応じて自己管理、または担当職員により保管し必要な時は一緒に使用する。自己管理者に対しては担当者が定期的にチェックする。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各々に関して考えられる事故を想定しファイルにまとめており、その都度対応マニュアルに沿って対応している。また、見守りを強化することで事故を未然に防ぐよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	会社全体で行う救急訓練を全員で受けており緊急時の対応に備えている。また、事業所内でも看護師から初期対応の仕方の指導を受け、事前に対応の指示を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防、警察との協力体制を敷いている。緊急連絡図を作成。年2回の避難訓練などに取り組んでいる。(福祉センター全体。グループホームと特養合同)		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所者の状態の変化は常に家族や直接報告また、電話での報告をし、その時考えられるリスクの説明も同時に行い対応の仕方を話し合っている。対応の方法は1つだけではなく、いろいろな場面を想定し、話し合うように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康観察を行い、体調の変化の早期発見に努めている。バイタルに変化がある場合は看護部からの巡回時に報告し、指示を受け早期の対処に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所者1人ひとりの薬の文献をファイルにし、閲覧できるようにしている。変更になった場合は担当者(看護師)から職員全員に伝える。投薬箱に表示する工夫をしたり、全員が把握するまで伝えることとしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事等にも排便を促す工夫をし、水分補給は毎回チェックをしながら行っている。排泄誘導で、トイレでの排便の習慣づけの働きかけも継続して行っている。医師からの指示で下剤で排便コントロールしている方もいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力で出来る方への支援も含み、磨き残しのチェックをし、介助をしながら口腔内の状態を観察している。また、地域の歯科クリニックからの協力もあり今後さらに取り組みに力をいれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるメニューを基本としているので栄養バランスは取れている。また、毎食ごとに食事と水分摂取量を記録している。その中で食事摂取量が減ってきている方へはケアプランを見直しながら対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	会社として、感染対策委員会を設置し各種マニュアルを作成している。また、随時感染情報を提供すると共に感染予防(手洗い、うがいなど)の励行を呼びかけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	感染対策委員会からの食中毒の予防についての社内研修を実施したり、栄養管理部(栄養士、調理長)からの助言を頂きながら安全管理につとめている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	清潔感があり、明るい環境作りに努めている。玄関には観葉植物を置くなどして工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に続く談話コーナーが配置されゆったりとしたスペースがある。天窓からの採光も良く、全体的に清潔で皆が心地良く集える空間作りに心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーにはソファや畳の空間があり、その時の気分に応じた過ごし方ができるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が使い慣れたもの(馴染み)を持ち込んで自由にレイアウトしている。また、各個室にはトイレと洗面台が設置されている。		寝床もベッドが良いか、畳に布団が良いか、本人の希望を優先に考え出来るだけ生活スタイルを崩さないよう配慮している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室テラス側の戸を開放し換気したりホール側の戸を開け、ホールと居室の温度になるべく差がないように調節している。また、湿度管理にも配慮している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーにしてあり、手すりを設置。自立歩行が可能な限り施設内の歩行が安全に出来るよう工夫している。シルバーカーなどの福祉用具を使用し、安全な歩行も確保している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人自らすすんで日課として行っている事は、1つの役割としてやっていただいている。日課の急な変更があった場合は何度も説明し、納得、理解を求めながら行っている。不安や拒否が見られる場合は無理強いしない。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りに柵をつけ周囲の散歩がしやすい(安全にできる)ように工夫している。天気の良い日は散歩のあと、テラス側の中庭で休憩、おやつを取ったり外の景色を眺め会話をしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入所者へのバイタルチェックを毎日欠かさず行い体調の変化に気配りをしている（今年度は入院がない）
- ・看護部からの協力があり、毎日看護師の巡回により入所者の健康に維持に努めている（今年度からの取り組み）
- ・畑で収穫された野菜を会社主催ゆうあい祭りで地域の皆様に提供している（畑仕事も野菜販売も入所者のやりがいになっている）
- ・